

# 日指の椿まつり投句大賞 受賞作品発表



大賞（二点）

つくばひに浮く白椿紅椿

久恒 大輔（中津市）

倉田紘文先生の評

茶庭などに据える手水鉢を蹲という。茶室では心身の塵を払うものとして重視されている。その「つくばひ」に白と紅の落椿が浮いているのである。清浄感が溢れている。

## 優秀賞（七点）

句の後は倉田紘文先生の評

一条まとわぬ落椿石の上 橋本 紅洞（大分市）  
椿は散らずに、美しい花の姿を保って落ちる。まさに地に咲く花である。

その中の乙女椿に逢ひにゆく 中尾 豊子（大分市）  
なんと可愛い名前の椿であることよ。「乙女椿」に心惹かれる。

美しきいのちそのまま落椿 為成 央子（豊後高田市）  
「美しきいのちそのまま」がなんとも切ない。椿の宿命である。

持て持ての光源氏と言ふ椿 川崎 静子（豊後高田市）  
人気があってちやほやされることが「持て持て」。＜光源氏＞が眩しい。

つばきさくひろいこうえんたのしいな 藤本 真瑚（大分市）  
七歳の子どもの作。思ったままが十七字でつづられている。純真無垢。＜俳句は  
三尺の童にさせよ＞は芭蕉の言葉。＜一尺＞は二・五歳。この子と同じ。まったく  
心身ともに汚れなし。椿の里に多くの子供さんに来てもらいたいね。

寒椿雪降る中で凜と咲く 五所 優佳（宇佐市）  
高校生であろうか。言葉も内容もしっかりしているね。心が洗われる。

様々な想ひを馳せて椿の名 枕辺 澄子（宇佐市）  
それぞれの椿の花の姿に、それぞれの名前がある。連想・想像の楽しさ。

## 奨励賞（八点）

落ちてゐる事忘れゐる落椿 瑞木あや子（大分市）

おめあての椿に今日も逢いに来し 江口美佐子（宇佐市）

春になり椿の花も美しき 堀口 未来（別府市）

車椅子二つ並べて椿園 吉川さち子（速見郡日出町）

達観をして大輪の落椿 足立 泰子（由布市）

白椿咲きて気品のありにけり 宮川アヤ子（宇佐市）

寒椿ぽとりと落ちて仏け道 藤原 正直（国東市）

裏道も楽し真紅の藪椿 大波多美妃（豊後高田市）

※ 敬称略

※ 作品は豊の国物産館特設コーナーにて展示しています。

期 間：平成23年2月19日(土)～4月17日(日) 投句料：無料  
募集作品：大分農業文化公園の椿を詠んだ俳句 投句総数：558句

選 者：倉田紘文先生  
別府大学名誉教授・社団法人俳人協会理事  
大分県俳句連盟会長・俳誌『落』主宰